

茨城新聞

1/28
[火曜日]

茨城新聞社

〒310-8686
水戸市笠原町978-25
電話(029)239-3001(代)
http://ibarakinews.jp
編集センター
〒310-0842
水戸市けやき台3-42-1
電話(029)248-5500(代)

在宅医療の意義学ぶ

水戸 医療法人理事長が講演



在宅医療の良さを考えた講演会＝水戸市緑町3丁目

在宅医療の普及啓発を図る講演会（県看護協会主催）が25日、水戸市緑町3丁目の県保健衛生会館で開かれ、高齢者を中心に約150人が、住みなれた自宅や地域で医療を受けることの意義について学んだ。

講師は、栃木県小山市で1992年から在宅医療を展開する医療法人アスミスの太田秀樹理事長が務めた。

講演の中で、太田理事長は、病院勤務時代に来院自体が大変な患

者の多さを実感したことが、動ける医師が患者のもとに出向く在宅医療を実践するきっかけになったと紹介した。

「最期をどう迎えたいか」の問いに対し、6割を超す患者が「自宅」と答える一方で、実際には8割が病院で最期を迎えている現状を指摘。特に、日本は9割のがん患者は病院で亡くなっており、太田理事長は「これまで医療は1分1秒でも長く生きることが優先してきたが、患者が最期まで痛みと闘い続けたいと思っ

てほしい」と呼び掛けた。

さらに、在宅医療現場で使用しているエコーやレントゲンなどの機器も説明、医療レベルは病院とほぼ変わらないと強調した。このほか、歯科医師や薬剤師などの訪問を受けている患者の様子も写真で紹介し、在宅医療普及の大切さを訴えた。（小池忠臣）